

編集部の
授業見学レポート

教材名

二通の手紙

教科書

3 年 P.178~183

実践者

志村 修 先生
練馬区立開進第三中学校 副校長

内容項目

C (10) 遵法精神、公德心

授業見学にあたって

- ◆子どもたちの願いを叶えるべきか、動物園の規則を守るべきかという主人公（元さん）の葛藤の中で、生徒がどう考えるのかを楽しみに見学しました。今回の授業は特別に 65 分を使って、普段は授業を受け持っていない副校長の先生の授業でした。「二通の手紙」を中心に、追加資料も使用すると聞いていたので、時間配分にも注目しました。
- ◆浅見哲也先生（十文字学園女子大学 教授）の「二通の手紙」のご実践を参考に、授業をされたとのことでした。

授業の概要

- ◆ねらい：規則よりも自分の思いを優先させてしまったために起こったトラブルを描いた物語を通して、秩序と規律ある安定した社会や、思いやりのある社会、ウェルビーイングを実感できる社会を実現しようとする実践意欲を育てる。
- ◆生徒数：28 人程度
- ◆教材のあらすじ：動物園の入園係の元さん。いつも園内をのぞいていた姉弟が、弟の誕生日だから中を見せてやりたいとやって来ます。規則では入れてはいけませんが、二人を中に入れてやると、閉園時間が過ぎても戻って来ず、職員総出でやっと見つけることができました。後日、元さんは母からの感謝の手紙と「懲戒処分」の通告を受け取ります。

当日の授業の流れ

	学習活動／先生の発言／生徒の発言・様子	編集部のまなび／指導の工夫
導入	身近な規則について考える。〈10 分〉 ●身の回りにはどんな規則がありますか。 ・校則／交通ルール／憲法や民法／スポーツのルール	◆緊張を解くため、明るく親しみやすい声かけや、リアクションをしていた。
展開	新聞記事「乗り違え受験生に新幹線『温情停車』」を読んで、考える。〈10 分〉 ●もし自分が運行管理者だったら、この例外を認めるかどうか、ワークシートの数直線に書き込んでください。書き込んだら、ホワイトボードの数直線の当てはまる位置にも名札を貼ってください。 ・（迷っているが、例外として認めるという生徒が多い。）	◆実際に手を動かす時間を取っていた。生徒どうしの交流を増やし、先生もそれぞれの様子を見取りやすくするというねらいで、この活動を組み込んだとのことだった。
	姉弟を動物園に入れた元さんの思いを考える。〈12 分〉 ●元さんは、なぜ姉弟を動物園の中に入れたのでしょうか。 ・姉弟がかわいそうだったから。 ・弟の誕生日で特別な日だったから。 ・入園料を握りしめてきていたところがかawaiiそうだった。 ○君なら、それをスルーできる？ ・私ならできないかも。 ●元さんは、どんな気持ちで中に入れたのでしょうか。 ・もう辞めさせられてもいい。	◆事前読みをしていたが、教材理解に差が出ないように、ポイントになる場面を、いっしょに確認していた。 ◆先生と生徒の一対一の対話にならないように、適宜、グループで話し合う時間を設けていた。

	・（元さんの中で）決意をした。 ・決断をしたし、責任を負っていた。	
	元さんの行動はいけないことだったのかを考える。〈25 分〉 ●（母親からの手紙を朗読。）元さんは人としていけないことをしたのでしょうか。班で意見交換をしてから、話し合ったことを発表してください。 ・姉弟のためになっている点はいいが、子どもを危険にさらし、人に迷惑をかけている点では悪い。 ・子どもの夢を尊重したことはよかったが、働く人としては悪かった。 ・今回は何もなかったからいいけど、もし気づかずに取り残されたら、人としていいことではなくなってしまう。 ・子どもの夢を叶えたいという思いやりや優しさは人としていいことだった。でも、規則を破ったのは職員としては悪いことだった。人としてのいいことと、職員としての悪いことをてんびんにかけると、人としての思いやりのほうが大事だと思うから、元さんはいいことをしたと思った。 ●元さんが規則を守っていたらどうなっていたと思いますか。 ・姉弟がショックを受ける。 ○元さんが規則を守っていたら、この事件は起きたのかな。 ・起きなかった。 ・人に迷惑もかからなかった。 ・処分を受けることもなかった。	◆話し合いの際には、「まなボード」（A3 程度 of ホワイ トボード）をメモ代わりにしていた。 ◆生徒が発表するときに、「他の班と同じことを言ってくれても結構ですよ」と声がけをし、生徒に安心感をもたせていた。 ◆「思いやり」と「規則を守ること」を立場（「人として」「職員として」）の違いで考えがちだった生徒たちに、別の見方を与えていた。その結果、生徒たちは立場の違いを超えた規則の意義について考える視点に気づけたようだった。
終末	規則にはどんな思いが込められているかについて、考える。〈8 分〉 ●規則の中には、どんな思いが込められていると思いますか。 ・（ワークシートに書き込む。） ●みんなにお手紙を書いてきたので、それを読んで、この授業をおしまいにします。	◆先生からの手紙形式の講話で締め括られた。手紙は生徒に問いかける内容で、それを踏まえて生徒は振り返りを書いていた。
授業後	授業を通してどのようなことを考えたか、考えた価値を自分なりに深め、広げたことを「深い学びへの道徳ノート」に記述する。 ・規則を守ること で人々が安全に生活できるが、場面によってはその規則が人を苦しめることもあると知り、複雑な気持ちになった。授業の中で、人によって考え方が違うことに気づき、どちらかが我慢しなければ意見を統一できないのか気になった。 （先生のコメント）規則は何のための規則なのかを考え、全ての人が納得できるものを目ざして作らないといけないね。我慢ではなく、理解し合える規則ができるといいね。 ・規則を破ることで幸せになる人もいるかもしれないけれど、その他の多くの人に迷惑をかけてしまうことがわかった。自分が元さんや、（追加）資料の運行管理者の立場になったとき、規則を守り続ける自信がない。本当に難しいものだと感じた。 （先生のコメント）「規則は守るべきもの」が大原則だけど、温かく練られた規則ばかりではありません。規則を作る立場の人の一面的な見方で作られていることもあります。規則を作る立場になったときには、温かな、練られたものにしてください。	◆ワークシートは、後日、先生からのコメントとともに生徒に返却された。先生のコメントからは、生徒一人一人の書き込みに、真剣に向き合って書かれたということが伝わってきた。生徒にとって、書いたときから時間を空けて、先生のコメントを読むことによって、改めてどんなことを考えたのかを振り返ることができ、さらに考えを深めることにつながっているようだった。